

横須賀市中小企業景況レポート

第 23 号 (平成 30 年 7 月号)

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町 11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：165社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査148社）
- ③ 調査期間：前期・・・平成30年 1～3月の景況感（調査時点 平成30年 3月1日）
 今期・・・平成30年 4～6月の景況感（調査時点 平成30年 6月1日）
 次期・・・平成30年 7～9月の景況感（ // ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：DI値算出による（次ページにDI値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

*DI値調査結果は裏面に記載

*【 】は今期のDI値を記載

全業種の景況感は、前期の1Pから2P改善し、【3P】となりました。

業種別にみると、不動産業【15P】、サービス業【11P】は、それぞれ15P、20Pの大幅な改善が見られました。しかし、卸・小売業【△15P】は9P悪化し、製造業【14P】、建設業【2P】もわずかに悪化しました。

次期については、サービス業は大幅な悪化が予想されていますが、他の業種は全て改善が見込まれています。

全業種の項目別でみると、全ての項目で、前期からはほぼ横這いとなっていて、雇用人員【△35P】の厳しい状況は続いています。次期についても、雇用人員の人手不足は改善されないと予想されています。

昨年同期（平成29年4月～6月）と現在の景況感比較については、「変わらない」が半数を占めました。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した値が DI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

良い (15P 以上)	やや良い (6 P~14P)	変わらない (△ 5 P~ 5 P)	やや悪い (△ 6 P~△14P)	悪い (△15P 以下)
↑	↗	→	↘	↓

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

*【 】は今期の DI 値を記載

(1) 製造業 景況感 【 14P <やや良い> ↗ 】 (前期比△ 4 P)

売上額【 9P 】は、9P 悪化しましたが、一方で収益【 11P 】と資金繰り【 3P 】は、改善しています。雇用人員【 △44P 】は、依然として人手不足で、次期も厳しい状況が続く見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・主力受注先を中心に受注は好調が続いている。人手不足のため、今春からベトナム人を社員として採用。今後、団塊世代の定年退職が続くことから、定期的に採用していく計画である。
- ・安定した受注確保はできている。それ以上の受注が頭打ちであり、販路拡大・新規顧客獲得が課題である。
- ・大口取引先からの受注減少・競合他社との価格競争もあり減収・減益となっている。売上高については、主要取引先からの受注量に左右される状態である。

(2) 建設業 景況感 【 2P <変わらない> → 】 (前期比△ 3 P)

収益【 △ 3P 】は、14P と大幅に悪化しました。雇用人員【 △32P 】は、4P 改善しましたが、依然として人手不足が続いています。

次期に向けて、売上額、収益は、大幅な改善が見込まれていますが、雇用人員、資金繰りは、厳しい状況が続くと見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・大手企業に常駐しているため、毎年売上げは安定している。県外からの取引も行い、最近では販路拡大に向けて、営業を積極的に行っている。
- ・業況拡大を視野に入れており、人材確保に注力していく方針である。しかし、出張が多いことから若手の定着率を維持することが重要である。
- ・個人住宅のリフォーム工事を中心に、受注は確保されているものの、材料費及び人件費の高騰は否めない。
- ・近年、受注先の公共事業の仕事が価格競争で年々減少傾向にある。同じ仕事量であっても、利益率も確実に減少している。今後、消費増税に向けて材料費の値上がり傾向が強まると予想され、利益確保が大きな課題となっている。

(3) 卸・小売業 景況感 【△15P <悪い> 】 (前期比△9P)

景況感の悪化とともに、売上額【△17P】が6P悪化しましたが、収益【△21P】、資金繰り【△8P】は、改善しました。

次期は全体的に改善し、特に売上額、収益に大幅な改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・地域に根付いた小規模スーパーとして経営しているが、大型店への顧客の流れは止まらず、地域の高齢化も重なり店舗の売上げ減少は続いている。
- ・原油価格がじわじわ上がっていることが、収益に悪い影響を与えつつある。
- ・商品の一括仕入れにより、原価低減や輸送費等の経費削減を図り、利益向上を目指している。また、販路拡大を重点施策として、東京、横浜方面にも営業が回り、新規顧客獲得に尽力している。

(4) 不動産業 景況感 【15P <良い> 】 (前期比+15P)

景況感に反し、すべての項目で悪化しています。特に、売上額【15P】、雇用人員【△31P】、資金繰り【△15P】は、それぞれ14P、24P、15Pの大幅な悪化が見られます。

次期は、ほとんどの項目で改善が見られますが、雇用人員は人手不足が続く見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・法人へ資材置場や駐車場を貸しており、売上げは非常に安定している。代表者が高齢であり、後継者を探すことが課題となっている。
- ・駅から少し離れたところは、シャッターが閉まったままの店舗が増えてきたように感じる。
- ・不動産の最終価格が下落しており、仲介手数料も横這い。不動産仕入れも市況が厳しいため慎重にならざるを得ず、大きな伸びは期待できない。堅調に手数料収入、賃貸管理収入を得ることで内部留保を増やしていく方針。

(5) サービス業 景況感 【11P <やや良い> 】 (前期比+20P)

景況感【11P】の大幅な改善に合わせ、売上額【11P】、収益【3P】、資金繰り【3P】で、それぞれ、14P、15P、12Pの改善となりました。

次期は、改善傾向が続かず、全ての項目で悪化が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・原油高による仕入れ価格の高騰が続いている中ではあるが、売上げ減少部分は、販売価格に転嫁することでカバーしている。
- ・高齢化の影響もあり、比較的近距離での利用客が増加傾向にあり、客単価は下落。燃料費については、依然として高止まりしており、利益率が若干であるものの悪化している。
- ・外国人を雇用した。言葉の面では困らないが、漢字が分からないので言葉で伝えるようにして仕事を進めている。仕事の内容を考慮すれば、雇用する側として何ら問題はない。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成30年1～3月の景況感（調査時点 平成30年3月1日）
 今・・・今期 平成30年4～6月の景況感（調査時点 平成30年6月1日）
 次・・・次期 平成30年7～9月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	168	39	36	44	14	35
今期	165	36	34	46	13	36
次期	165	36	34	46	13	36

(単位：社)

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	24	25	25	33	28	28	19	26	29	30	24	28	21	15	23	14	28	14
	変わらず	53	53	60	52	58	64	67	50	62	34	37	46	58	85	77	63	55	69
	悪い(B)	23	22	15	15	14	8	14	24	9	36	39	26	21	0	0	23	17	17
	DI値(A)-(B)	1	3	10	18	14	20	5	2	20	△6	△15	2	0	15	23	△9	11	△3
	今-前、次-今	2	7		△4	6		△3	18		△9	17		15	8		20	△14	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	30	25	24	36	31	25	31	26	29	30	22	26	36	15	31	20	28	14
	変わらず	45	50	58	46	47	64	47	48	59	29	39	46	57	85	61	57	55	67
	悪化(B)	25	25	18	18	22	11	22	26	12	41	39	28	7	0	8	23	17	19
	DI値(A)-(B)	5	0	6	18	9	14	9	0	17	△11	△17	△2	29	15	23	△3	11	△5
	今-前、次-今	△5	6		△9	5		△9	17		△6	15		△14	8		14	△16	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	23	22	24	31	28	25	28	21	24	16	20	30	29	15	23	14	22	14
	変わらず	49	54	60	46	55	67	55	55	64	34	39	42	64	85	77	60	59	67
	減少(B)	28	24	16	23	17	8	17	24	12	50	41	28	7	0	0	26	19	19
	DI値(A)-(B)	△5	△2	8	8	11	17	11	△3	12	△34	△21	2	22	15	23	△12	3	△5
	今-前、次-今	3	10		3	6		△14	15		13	23		△7	8		15	△8	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	4	3	1	3	3	0	6	3	3	5	2	0	0	0	0	6	6	0
	適正	58	59	63	51	50	56	52	62	59	61	65	74	93	69	77	51	52	58
	少ない(B)	38	38	36	46	47	44	42	35	38	34	33	26	7	31	23	43	42	42
	DI値(A)-(B)	△34	△35	△35	△43	△44	△44	△36	△32	△35	△29	△31	△26	△7	△31	△23	△37	△36	△42
	今-前、次-今	△1	0		△1	0		4	△3		△2	5		△24	8		1	△6	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	余裕がある(A)	14	16	13	13	14	14	17	18	9	16	22	20	7	0	8	11	17	8
	支障がない	64	65	71	66	75	83	61	61	65	54	48	58	86	85	69	69	69	81
	苦しい(B)	22	19	16	21	11	3	22	21	26	30	30	22	7	15	23	20	14	11
	DI値(A)-(B)	△8	△3	△3	△8	3	11	△5	△3	△17	△14	△8	△2	0	△15	△15	△9	3	△3
	今-前、次-今	5	0		11	8		2	△14		6	6		△15	0		12	△6	

<参考> 昨年同期と現在の※景況感比較(回答148社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」が良い(A)	34社	23%	—
昨年と比べ「景況感」が変わらない	86社	58%	—
昨年と比べ「景況感」が悪い(B)	28社	19%	—
DI値(A)-(B)		4P	—



※今期(23号)から景況感比較に変更しました。